

# 令和4年度の環境の状況について

## I 大気環境の状況 | 本編 P.1～ / 資料編 P.1～

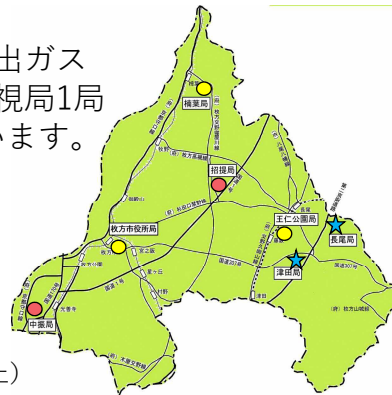
概要

- ☑ 光化学オキシダントを除き全測定局で環境基準を達成
- ☑ 有害大気も、環境基準値又は指針値を下回る
- ☑ アスベストもWHO基準を下回る
- ☑ ダイオキシンについても環境基準を達成

### (1) 大気汚染測定局の状況

一般環境大気測定局3局、自動車排出ガス測定局2局及び第二京阪道路環境監視局1局で大気汚染物質を常時、測定しています。

- 一般環境大気測定局（一般局）  
大気環境の状況把握のため設置
- 自動車排出ガス測定局（自排局）  
自動車排出ガスの影響把握のため設置
- ★ 第二京阪道路環境監視局（第二京阪局）  
第二京阪道路による大気環境等への影響を把握するため設置（長尾局は令和3年度より休止）



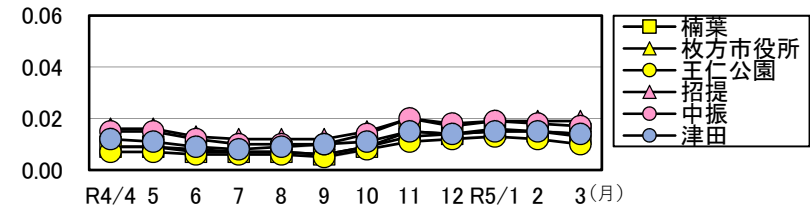
### (2) 測定項目と環境基準達成状況

光化学オキシダントを除き、全測定局で環境基準を達成しました。

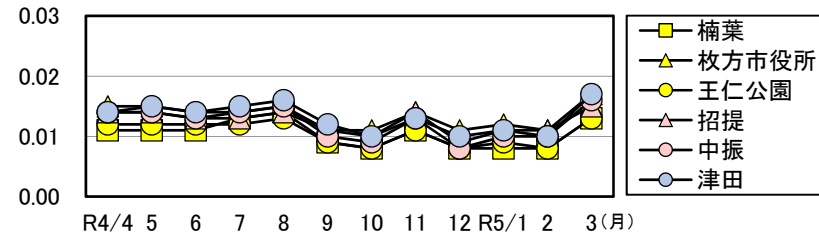
測定局名	測定項目												
	常時監視項目								有害大気				
	二酸化窒素	一酸化窒素	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	光化学オキシダント	一酸化硫黄	一酸化炭素	風向・風速	非メタン炭化水素	ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン
一般局	枚方市役所	○	○	○	—	×	○	—	○	○	○	○	○
	王仁公園	○	○	○	○	×	—	—	○	—	—	—	—
	楠葉	○	○	○	—	×	—	—	○	—	—	—	—
自排局	招提	○	○	○	—	—	—	○	—	○	—	—	—
	中振	○	○	○	○	—	○	○	—	—	—	—	—
第二京阪局	長尾	休止中											
	津田	○	○	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—

### (3) 測定項目ごとの経年推移

① 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) | 環境基準値 0.06 (ppm)



② 浮遊粒子状物質 (SPM) | 環境基準値 0.10 (mg/m<sup>3</sup>)



③ 有害大気汚染物質

枚方市役所局で21物質、招提局（自排局）で7物質について調査を行い、環境基準値及び指針値をすべて下回りました。

④ アスベスト

調査地点における3日間の幾何平均値は0.099本/Lで、世界保健機関(WHO)の環境保健クライテリアと比べ低い濃度でした。

⑤ ダイオキシン類

枚方市役所局で4回測定し環境基準値をすべて下回りました。

## Ⅱ 水環境の状況 | 本編 P.6～ / 資料編 P.34～

### 概要

- ☑ 健康項目は全地点で全項目、環境基準を達成
- ☑ BOD75%値も3河川ともに環境基準を達成

- ☑ 地下水質も全地点環境基準値を達成
- ☑ ダイオキシンについても環境基準を達成

### (1) 公共用水域の水質調査結果

番号	河川等名	地点名
1	船橋川	新登橋上流
2	穂谷川	淀川合流直前
3	天野川	淀川合流直前
4	黒田川	西ノ口樋門
5	安居川	淀川合流直前
6	出口雨水幹線	枚方寝屋川市境
7	藤本川	淀川合流直前
8	船橋川	新宇治橋
9	穂谷川	穂谷川新橋
10	北川	北川流末



#### 健康項目

すべての地点で環境基準を達成しました。

#### 生活環境項目

##### ①生物化学的酸素要求量（BOD）

船橋川・穂谷川・天野川で環境基準を達成しました。

	環境基準値	BOD75%値（mg/L）
船橋川	3mg/L以下	2.9
穂谷川		1.4
天野川		1.7

##### ②その他の項目

浮遊物質、溶存酸素量はすべての地点で環境基準を満足し、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩もすべての地点で環境基準を下回りました。

##### ③ダイオキシン類

河川水質中、河川底質中のダイオキシン類はすべての地点で環境基準値を下回りました。

### (2) 地下水質の水質調査結果

#### 概況調査

すべての地点で環境基準を達成しました。

#### 継続監視調査

汚染の継続監視が必要とされた12地区中、9地区で調査を実施し以下の3地点で環境基準を超えて検出されました。

- ・ 尊延寺馬廻地区で鉛及び砒素
- ・ 中宮山戸町地区でテトラクロロエチレン
- ・ 楠葉中之芝地区で砒素

#### ダイオキシン類

地下水中のダイオキシン類は長尾家具町で測定し、環境基準値を下回っていました。なお、土壌については船橋小中学校で測定をしておりますが、こちらも環境基準値以下となっています。

#### PFOS・PFOAについて

人の健康の保護に関連するものの、公共用水域等の検出状況等からみて、直ちに環境基準とせず、国において引き続き知見の集積に努めるべき物質として32項目が設定されています。

PFOS及びPFOA以外の31項目は、市内7地点で測定した結果、指針値を超えて検出された地点はありませんでした。PFOS及びPFOAは、市内3地点で測定した結果、2地点で指針値を超えて検出されました。

なお、令和3年度に測定した4地点のうち3地点においても、指針値を超えて検出されています。

### Ⅲ 騒音の状況 | 本編 P.9～ / 資料編 P.57～

概要

☑ 道路に面する地域は市全体で95.7%達成

☑ 一般地域は100%達成

道路に面する地域29地点及びそれ以外の一般地域24地点のうち令和4年度は道路に面する地域7地点、一般地域8地点で環境騒音モニタリング調査を実施しました。

#### ①道路に面する地域

道路の種類別	評価区間延長 (km)	評価区間	評価対象住居等戸数	昼夜とも基準値満足	昼間のみ基準値満足	夜間のみ基準値満足	昼夜とも基準値超過
一般国道	25.1	34	5,277戸	4,695戸 (89.0%)	262戸 (5.0%)	0戸 (0.0%)	320戸 (6.1%)
府道	52.5	44	19,165戸	18,690戸 (97.5%)	231戸 (1.2%)	25戸 (0.1%)	219戸 (1.1%)
全体	77.6	78	24,442戸	23,385戸 (95.7%)	493戸 (2.0%)	25戸 (0.1%)	539戸 (2.2%)

#### ②一般地域

地域の区分	地点数	昼間			夜間		
		環境基準値	測定値 (Leq)	適合地点数 (適合率%)	環境基準値	測定値 (Leq)	適合地点数 (適合率%)
A専ら住居の用に供される地域	12	55dB以下	37~47dB	12 (100%)	45dB以下	35~39dB	12 (100%)
B主として住居の用に供される地域	6	55dB以下	39~51dB	6 (100%)	45dB以下	34~41dB	6 (100%)
C相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域	6	60dB以下	42~48dB	6 (100%)	50dB以下	37~42dB	6 (100%)
全地域	24	-	37~51dB	24 (100%)	-	34~42dB	24 (100%)

### Ⅳ 地盤環境の状況 | 本編 P.10～ / 資料編 P.61～

概要

☑ 地盤沈下の傾向はみられない

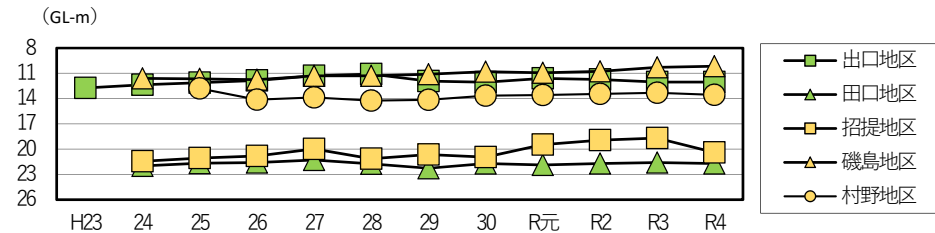
☑ 次回測定は令和6年度（電子基準点を活用）

市内42地点に一級水準点を設置し、昭和47年度から水準測量を、平成23年からは地下水位の観測を実施しています。いずれも計測開始から大きな変動は見られてません。次回の一級水準測量は令和6年度の実施を予定しています。

#### ①水準測量変動値

No	地点	H30比	No	地点	H30比	No	地点	H30比
1	三矢公園	-0.55	15	菅原小学校	-0.32	29	田口山配水場	-0.48
2	八幡神社	-0.67	16	津田支所	-0.37	30	牧野車塚公園	-0.49
3	高陵小学校	-0.56	17	水道春日事務所	-0.35	31	山田神社	-0.27
4	殿山第一小学校	-0.45	18	春日公会堂	-0.24	32	円通寺	-0.35
5	清伝寺	-0.86	19	桜丘小学校	-0.23	33	市道枚方牧野線	-0.85
6	牧野公園	-0.45	20	春日神社	-0.43	34	山田小学校	-0.39
7	藤本川ポンプ場	-0.56	21	春日小学校	-0.40	35	中宮公園	-0.48
8	上水管理施設	-0.56	22	香陽小学校	-0.33	36	星丘中央線	-0.24
9	町楠葉会館	-0.70	23	第二中学校	-0.36	37	鷹塚山配水池	-0.32
10	樟葉小学校	-0.43	24	蹠跽小学校	-0.26	38	枚方第二小学校	-0.29
11	七ツ松公園	-0.40	25	二宮公園	-0.34	39	山之上小学校	-0.40
12	中の池公園	-0.74	26	牧野小学校	-0.56	40	第四中学校	-0.68
13	北部区画第2号線	-0.33	27	殿山第二小学校	-0.32	41	総合福祉センター	-0.18
14	菅原保育所跡地	-0.38	28	招提小学校	-0.20	42	氷室小学校	-0.58

#### ②地下水位経年変化



#### 電子基準点への移行について

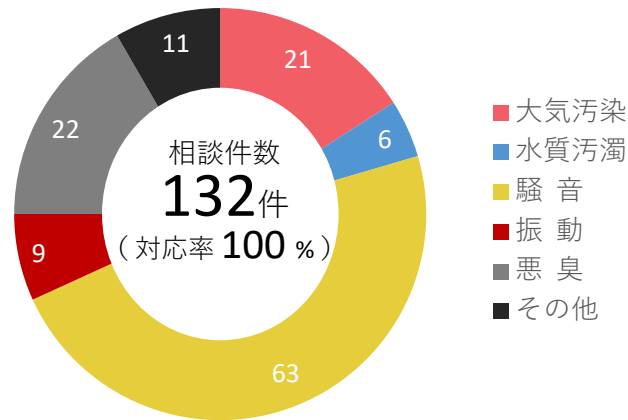
国・府が一級水準点を用いた一級測量から電子基準点\*の測量値による監視に切り替わっています。本市も国からの助言を踏まえ、令和6年度以降は電子基準点を用いて一級測量を実施します。

\*電子基準点とは、米国のGPS、日本のみちびきなど各国のGNSS(全球測位衛星システム)からの測位信号を受信し、位置を精密に決定する観測施設です。

# 令和4年度の相談状況について

概要	☑ 相談対応率は100%を維持	☑ 経年変化では相談が減少傾向
	☑ 騒音に関する相談が最も多い	☑ 悪臭相談に関しては横ばい

## 令和4年度の相談状況



最も多い騒音の相談内容としては、建設現場、道路騒音、隣接事業者などによるものが多い  
 次いで大気汚染の相談が多いが、解体に伴う粉塵などの相談が目立つ傾向にあった。  
 よって、相談の原因となっているものは建設現場によるものが大半を占める状況である。

### <令和5年度の対応>

- ▶ 届出受理の際に近隣への配慮を再度確認する
- ▶ 解体現場を対象としたパトロールを強化

過去5年の経年変化としては次の通りです。  
 相談件数としては減少傾向にありますが、依然として、騒音に関する相談が多く、また悪臭に関する相談は横ばいとなっています。

	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	地盤沈下
平成30年度	26	7	56	10	15	-	-
令和元年度	29	10	98	14	30	-	1
令和2年度	20	7	107	6	28	-	-
令和3年度	25	10	72	7	16	-	-
令和4年度	21	6	63	9	22	-	-

